



発行所
興行寺教化部

福井県吉田郡永平寺町
電話 0776-64-2744
FAX 0776-64-2791
新田塚道場 (支坊)
福井市新田塚2丁目46-26
電話 0776-26-1191
FAX 0776-26-7868

宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要

明年 4月24日(日)

前門様をお迎えして



この度、五十年に一度の大
法要「宗祖 親鸞聖人七百五
十回大遠忌法要」を、門信徒
の皆様と共に迎えます。門徒
と心より有難く思います。
さて、この法要を迎えるの
に当たり、今一度ちよつと立
ち止まって、当たり前の事で
既に皆様御存知のことと思
いますが、「宗祖 親鸞聖人七
百五十回大遠忌法要」につ
いて、簡単に記してみました。
宗祖とは一宗一派の開祖の
ことであり、我々にとっては
浄土真宗の、ご開山である親
鸞聖人のことでもあります。
皆様もご承知のように、親
鸞聖人は承安三年(一一七三
年)にお生まれになり、九才
で出家得度され、その後、比
叡山で学問を積み、厳しい自
力の修行をされました。しか
し、どんなに修行しても迷
いを離れることは出来ず、二十
九才の時、聖徳太子の示現を

得て、法然上人に遇われ、本
願を信じ、お念仏の道を進ま
れました。
三十五才の時には法難によ
り、遠い越後にご流罪になら
れました。後に関東地方によ
り、人々と生活を共にし自信
教人信(阿彌陀仏の本願の救
いを自分も信じ他人にも信を
勧めること)の道を歩まれ、
ご教化されました。
晩年は京都で「教行信
証」や「三帖和讃」など多く
の著述をなされ、九十才に
て、ご往生の素懷を遂げられ
ました。
そして七百五十年余、今も
聖人のみ教えは連綿と引き継
がれて今日に至っています。
この法要は五十年ごと、に、
聖人のご苦勞を偲びお徳を
讃えると共に、浄土真宗のみ
教えを一人一人が深く受け止
め、混迷の時代を導く灯火
として、広く伝わる法要であ
ります。まさに混迷の真只中
今こそ真摯に親鸞聖人のみ
教えをお聞かせいただき、如
來のお慈悲の中に生かされ
ているこの我が身を、この法
要を通して感謝し、喜びの
日々を過ごさせて頂きたい
ものです。

興行寺におきましては、平
成二十五年より本堂を中心に
順調に整備、修復工事が行わ
れて来ましたが、
いよいよ、七百五十回大遠
忌を迎えるべき機運も整えら
れたことであり、去る六月に
各地区役員方の集会にて全会

法話

「教えられてね」

本誓寺住職 松本 梶丸 先生



「人は転ぶと石のせいにする。石がなければ坂のせいにする。そして坂がなければ、はいている靴のせいにする。」ユダヤの格言である。人間の生きざまは東西を問わないのである。どこどこまで人間は、自分のことだと引き受けられない。自是非(自分は正しい)。まちがっているのはお前だ)、他因自果(自分がこうなったのはお前の責任だ)。人間は自我(人知)に立つ限り、この世界を出ることができない。その事

ちがいが身勝手さや強情さには目覚めようもない。もう何年も前のことであるが、ある村へ法話へ出かけた時のことである。話が終わった後、七十歳前後のご婦人が部屋にいられて、いかにも嬉しそうに顔でこう言われた。「昨日、うちの嫁から教えられてね」と。話よらされた。昨日、自分が大切にしまっていたある品物を、必要があつて取り出そうとした。しかし、確かにタンヌの引き出しにしまっていたはずのその品物が見つからない。てっきり、その品物は嫁がどこかへ片付けたものと思つたが、嫁に「知らないか」と尋ねた。嫁は「全然、知らない」と答えた。嫁はさ

らに詳しく説明して「見覚えはないか」と尋ねた。それでも「どうしても知らない」という嫁に、カツとなったその姑は「お前はなんと強情で頑固な奴や!」と一喝した。間髪をいれず嫁から言葉が返ってきた。「同じやわい!」と。
その言葉に姑は「昨日、嫁から教えられてね」と言うのである。つまり、姑はなんでもないことに気がついたのである。強情で頑固なことにかけては、同じ者がここにおつた。おそらくこの姑には長い仏法聴聞の歴史があつたのであろう。不思議と私の胸に刻まれている思い出である。
(中日新聞 一期一會より)

一致で、来年四月二十四日に前門様をお迎えして勤修することになりました。(本山認可済)
このご縁に一人でも多くの方がご参詣下さいませこと心より願います。
振り返つてみますと、七百回大遠忌は色々事情で遅れ、昭和五十一年四月二十五日、二十六日に前門様をお迎えして盛大に行われました。
二十五日には新門様(現在の前門様)、二十六日には門主様(亡くなられた二十三代門主様)のお二方をお迎えし、にぎにぎしく行われました。又、当時の記録によると、稚児(六、四、四名)及び参詣者と合わせ、三千人以上あつたと記されています。
今回、前門様には四十年ぶり二回目のご来寺となります。

ご遺徳をしのぶ熱意と、次世代へみ教えが受け継がれて行く力となる法要であることを願います。又、子供達にとつても、思い出なる法要になることを期し、ご縁あるお子さま方に是非共、「お稚児さん」に出して頂きたく心より願います。
詳しいご案内は後日させて頂きませんが、法要当日のスケジュールの概略は、午前九時二十分より仏教壮年会創立四十周年の記念式典が行われ、十時より、奈良県光明寺住職でシンガーソングライターの三浦明利さんの歌とトークショーを一時間行います。
十一時過ぎ、境内にて前門様をお迎え。その後、帰敬式が行われます。
○時半より稚児行列が始まり、午後二時、前門様ご親修にて宗祖七百五十回大遠忌法要、その後前門様よりお話し、引き続き「つどい」が行われ、五時半頃に、前門様をお見送りし終了の予定であります。

ホームページのご案内

平成25年より、興行寺のHPが新設されました。来年の法要の情報、桜の開花など、どうぞご覧下さい。

URL <http://www.kougyouji.jp>



← 携帯・スマートフォンのバーコードリーダーで読み込んで下さい。

稚児募集

- 平成28年4月24日(日)
- 申込金 1万円
(衣装・小物等一式、お土産、お弁当代(2人分)含む)
- ◆ 一次締切 … 12月末
- ◆ 最終締切 … 来年3月末



帰敬式(おかみそり)

法要当日に、前門様による帰敬式を行います。ご希望の方はお早めにお申し込み下さい。
(三十名程)



・右写真 金箔工事がなされた前正面
・上写真 外陣両側の壁に描かれた鳳凰の図



“ありがたい” 特別寄進

本堂正面金箔工事によ
り、お浄土を表わすお荘厳
にふさわしく、金色に輝き
一層尊く感じられる。参詣
の方も、きれいな became 参詣
の方も、きれいな became 参詣
の方も、きれいな became 参詣

この工事には岐阜県岐南
町在住の日英シャッター株
式会社の会長であり、ふく
いブランド大使も勤めてお
られる大沢英一氏のご寄附
によるものである。六百五
十万円の工事費一切をこ
ろよくご寄附いただきました
。父上には新田塚幼稚園
創立の時に土地の世話な
ど、面倒を見て頂き以来、
お寺に貢献していただき

今回、新たに本堂内の白
壁ぬりと外陣の両サイドの
鳳凰の絵を藤巻、山田勝人
氏が寄附して頂き、なお一
層本堂を引き立たせる。

下合月、黒瀬頭治氏には
本堂裏の壁面工事を初め、
たびたびご寄附いただきま
したが、この程、お内陣の
荘厳の為に改めてご寄附
いただいた。ご本尊・台座、
前卓(三台)金箔ぬり、唐
紙の張替え等を、寄附金
の中より内陣修復させて
いただきました。

又、勝山市某氏には後堂の
縁板の張替え代として金百
万円を寄附して頂きました。
これら、多額のご寄附を
頂き、本堂の修復も順調に
行われ、立派になったこと
誠にありがたいこと深く感
謝申し上げます。

藤巻 多田慶子さんには
三年前、納骨堂横の土地を
ご寄附いただき、このたび

北陸布教の道

(二)



如道と三門徒

◆如道

如道は「慕帰絵」による
と、本願寺三代覚如へ参学
した者の筆頭に名を連ねて
いる。応長元(一三一一)
年、覚如は長男存覚を併い、
鏡御影と「教行信証」を持
つて越前へ下向し、大町如道
の法義を相伝した。この相
伝は「存覚上人一期記」によ
ると「御与奪」と記されてい
る。覚如、存覚側には、み
ずからの未来をつくつてい
こうという方向性が存在して
いなかったため、如道がこの
相伝を機に覚如の元へ帰依し

の法要では、法中方の駐車
場として使用させて頂きま
す。又、屋敷や家屋も、将
来後継者もなく、お寺へ寄
贈させて頂きたいというお
申し出により、この程あり
がたく興行寺の土地として
登記させて頂きました。ご
本人には生涯、我が家とし
て自由に使用して頂きたい
事である。来春の法要には
ご法中の宿として使用させ
て頂くことになりました。

《今後の工事予定》

内陣修繕やお荘嚴の方
は、特別ご懇志にて整えま
した。

一般ご懇志は総額貳千貳
百拾参万壹千円。支出壹
千五百四拾八万壹千円、
残額六百六拾五万円(八月
三十一日現在)であります。
今後主な支出としては、
法要費、本堂、対面所、客

たという徴証は見られない。
その一方で、如道はこれを機
に、円善系和田門徒の配下
から脱し、独自の一派を開創
するための貴重な手がかり
を得たのである。この相伝に
は、和田の信性と田嶋の興
宗寺行如も如道に同席した
という。死去は暦応四(一三
四一)年といわれるが、詳細
はいまだ判然としない。

◆三門徒の成立

如道の後の大町専修寺
(福井市)は、二男如浄が継
承。長男良如は武生正覚寺、
敦賀市西福寺の開基となる。
三男浄一は中野道場(後の専
照寺)を創建し、四男正道は

武生光照寺の開基となった。
大町二代目の如浄は、宝
永二(一七〇五)年成立の
『中野物語』や『証誠寺申状
等写』によると、やがて浄土
宗小坂義へ傾斜し、そのた
め、如浄の元から道性等の
「一向専修念仏往生義」の者
たちが分裂、続いて大町三代
目の良金の時、中野系の者
たちが分立した。この結果、
如道直系の大町専修寺は衰微
していった。

中野系の者たちは、親鸞
忌日に「精進」を行い、朝夕
の勤行の時に正信偈・和讃を
誦読していたが、本願寺六代
巧如から関係を絶たれ、出雲
路毫撰寺や真言宗の教義を受
容していった。

横越証誠寺の祖である道
性は、三河出身で如道の子
とも道願の子ともいわれ、当
初大町門徒の一員だったが、
越前今立郡山本荘に引き分か
れ一派をなした。道性の長男

住職雑記

▽住職になって早や五十数
年になったが、この間、門
信徒の皆さんのお陰により
四回大きな法要のご勝縁に
遭うことが出来た。

一回目は宗祖七百回忌、
次いで山門落慶法要、蓮如

は証誠寺を継ぎ、二男如覚は
父と不和になり鯖江に一寺を
分立し、三男道幸は川端常樂
寺を開いた。

鯖江証誠寺の祖である如
覚は、覚如の長男存覚の門
弟であったが、やがて「邪義
の骨張」となったため、本願
寺はいつしか友好関係を絶
たつたという。

本願寺覚如の高弟乗専を
祖とする京都出雲路の毫撰寺
は、応仁、文明の乱で退転し
た。その時、証誠寺善幸は、
毫撰寺の善智(妻は周覚の
娘)、善鎮らを山本荘に住ま
わせ、本寺として遇した。善
幸はまた、自分の娘の夫に周
覚の六男女秀を迎え、善智の
養子としていた。かくして、
三門徒各派は分裂を重ねなが
らも、南条郡。今立郡。丹生
郡一帯に拡がっていた。

と思っている。今の所、健康
の方も特に異常は感じられ
ないので、健康年令を延ばし
ていきたいものです。毎日三
十分位歩くことにしています。
しかし、段々と庭さうじなど、
やる気が起らなくなつてき
た。そして目は緑内障、歯は
上の歯を入れ歯にしなければ
ならないなど、部分的に悪い
所が増えてきた。これも
段々、年の所為であろう。七
月十一日で喜寿を迎えた。

▽今夏は早々に台風が接近
した。梅雨も、昔のようにシ
ットでなく、豪雨になり被害
がでる。三日程早く梅雨も
上がったが、連日三十℃を越
す真夏日が続く暑さである。
▽小六の東京の孫は少年野球
で、この程ヤクルト・ジュニア
チームに三百人の応募の中よ
り十八名の選手に選ばれた。
多くの体験を願う。楽しみ!

「認定こども園」スタート

昨秋より建設を進めていた「認定こども園」も三月末より「認定こども園」新田塚幼稚園が出生した。

国の「子ども・子育て支援新制度」が四月よりスタート。県内でも三十九施設が認定こども園になった。今後、増えそうである。これまで、幼稚園は文科科学省の所管、保育所は厚生労働省の所管と分れていたが、新制度で「認定こども園」は内閣府所管となった。

増築の為、隣接の土地百五十坪が、よいタイミングで購入でき、手続きに時間が、かかったが、増築に間に合うことができた。

増築では、一才向けの保育室、トイレなど新築されたが、新しく給食調理室が新設された。今まで外部業者の給食で



キッズ・デザイン賞の給食室

あり、完全給食ではなかったが、四月より内部で調理し、出来上がったものを、すぐ冷めない間に食べるのが出来、好評である。献立もマクロビオティックの日は発芽玄米ごはんも出され、健康に気を使ったメニューも並ぶ。園児達にはおいしいと好評である。給食調理室は、ガラス越しに内部を見ることが出来、明るく衛生的である。

このたび、当園の給食調理室がキッズ・デザイン賞(経済産業省主催)を受けた。新しい園舎の保育部には、○才児七名、一才児十七名、二才児四十七名、合計七十二名の園児が通園している。

実のあった児童一泊研修会

今年も児童一泊研修会が昨年より十名多い、六十一名の参加で行われた。六班に分れ、各々活動した。正信偈の練習、夜は芝生でのオリンピック大会、二日目は晨朝、奥田講師の「今日は広島に原爆が投下された日である。」と戦争のない平和の大切さについて話を聞いた。

午前中、華の蔵の見学、野外活動で、クイズラリーが行われ、楽しい二日間を送り閉会式を終えた。

去る七月二十七日の福井新聞に次のような記事があり、それについて子ども達に聞いてみた。
Q「ぼくの中学校では、給食の前にみんなそろって「いただきます」(食後に「ごちそうさまでした」)を言います。夏休



みに東京から来た、いどこにそのことを話したら「それってダサくない?」と言われて福井をばかにされたみたいで悔しかったです。でもうまく言い返さなくて、いどこが帰るまでに反論したいのです。いい作戦ありませんか。」参加者の五、六年生に感想を聞いてみた。

「ダメなの? えー東京では感謝しないの? 私達は食べ物、そして食べ物を作ってくれた方、料理を作ってくれた人に全員を感謝して言っているんだよ。そう考えると東京の人がひどいよね」
「東京では、いたゞきです。"ごちそうさま"しないの?もし自分が食べ物だったら感謝して食べてもらいたいよね」
「一、いつしよにごはんをたべた時に家族みんなで、"いただきます"といい、いどこだけいわないので、なぜいわないの?と、きけばすこしは、はずかしいと思う」
二、東京はそんなこともいわないのか? "れいぎ正しくないで"といい返す
三、"ごちそうさま"や"いただきます"は、"ありがとう"と同じあいさつなんだ。そんなことも知らないのか東京のほうでダサっていいいかえす」
又、「東京の人は言わない

華蔵会だより

◇ 仏教婦人会

○二月十四日「お寺へ懇う会」二十四名がお寺で楽しく冬の日を過ごした。

○清掃奉仕は四月十九日と七月四日の二回行った。四月は外の草取りを行う。七月は晨朝参拝し、正信偈、讀仏偈と一緒に唱え、その後、雨天の為、本堂内の清掃奉仕を行った。

○六月十六日「如月の華」の公演観劇が福井市文化会館

◇ 仏教壮年会

六月二十一日、総会。廿六年決算及廿七年の行事予定と予算が審議された。収入、支出二六〇九二円計上。

来年度は創立四十周年に当り、大遠忌法要に式典を行う予定。
毎年のだれ桜花見コンサートも盛大になってきたが

◇ 土曜学校

今春五名の仏の子が巣立った。六年間、熱心に通った女の子達である。しっかりと心の勉強をし、成長した。

引き続き、「残りたいなあ」と、さみしいとの気持ちもあり、サブリーダーとして、お手伝いしてもらったことになった。毎月三十数名の子供達が出る。保護者の協力が大切である。遠い所から、送迎もしている。五、六名は一緒に参加していた。お母

の。あんだ福井をバカにしないでくれるって」
など色々な答えがありました。
私達は毎日、肉や魚をはじめ、米や野菜などにもいのちがあります。その、いのちをいたゞきで私の今のいのちが「いただきます」は色々なもののいのちをいたゞきますということ。
「ごちそうさま」は全てのものに感謝する心であろう。宗教や何ごとにもこだわることなく、生かされている自分に気付けば自然と行う作法でないでしょうか。

初参式によつて

今年も宗祖隆誕会当日、赤ちゃんの初参式が行われた。

- *参加者
柴田 滯ちゃん 片瀬 比島和寛ちゃん 松岡 南部壮志ちゃん 藤巻 山田 剛ちゃん 藤巻 小寺梨花ちゃん 郡区



さんもおられ、子どもの遊びの時間は、先生と色々話合の時間をもうけている。保護者の後おしが大切である。

◇ 日曜学校

小学生の人数が減少し、六年生二名が卒業し、今は二名のみが出席している。存続が危ぶまれる。

◇七月二十五日午後五時半より、旧勝山町内仏教婦人会メンバー五名がお寺に参詣。本堂で正信偈、後、門徒会館にて会食後、住職の法話を聞き、色々話合を行った。来春の法要のお参りを楽しみに散会した。
◇八月二十日夜、片瀬道場にて、門徒のつどいが住職が出席して昨年に引き続き行われた。



瓦屋根工事

長年の間、縣案であった対面所の瓦ふき替え工事が五月中終了した。

下地もかなり痛みがひどく修理、裏板は全部取り替えた。箱棟は少し低くなったが、全体、瓦で積み上げた。三十年満期の火災保険四百万円にて、工事を行った。

認定こども園スタート

保育部主幹 保育教諭 前田 委久子

平成二十七年四月より学校法人華蔵学園新田塚幼稚園は認定こども園新田塚幼稚園に生まれ変わりました。

私は今年度、保育部担当との辞令を頂きました。これまで、三歳児以上の担任しか経験がない私にとって、この辞令は「生活の面でも自立していない小さな子どもたちへの教育ってどうしたらいいの?」と、とっても責任重大で、心が押しつぶされそうなお思いを経験しました。『幼くても同じ人間。言葉の内容を理解するとかではなく、本音で思いを持って話をすれば、必ず伝わる!!』と言って頂いてスタートしましたが、正直頭では理解出来ていたものの、どうしても目の前の小さな子どもたちの姿を見たら、どう会話したらいいのだろうと少々言葉を飲み込んでしまっ自分もいました。しかし、

毎日いろいろなクラスに入り、関わらせて頂き、二カ月は経ちました。生活の中ではいろいろな場面に遭遇しま

二歳児クラスに入らせて頂いた時のことです。給食の間、お野菜が苦手なAちゃん、食べる日を拒否して大泣きする日が続きました。そんなある日、Aちゃんとじっくり向き合い、話をしました。私の話す声をわざと聞かさないようにするかのようになり、「分かる!!聞きたくないよ!!先生も相手に自分の聞きたくない話をさせないよ!!と、Aちゃんみたくした」とある!!と話をすると、何と、「ピタッ」と泣き止んだのです。「自分の苦手なことをがんばるといことは、本当に苦しいことだよ!!でも、つらいことつてずっとなくな

逃げ出したい!!先生も今でも小さい時からこうして目の前のお山を逃げずにしっかりと登る練習をしておくと、大きなお山がやってくる時、登る力がちゃんと身に付いているんだよ!!逃げることをばかりしている、いざという時やっぱり逃げるとしか出来ないんじゃない??Aちゃん、どっちがいい?と尋ねました。ジッと耳を傾けるAちゃんでしたが、葛藤からまた大泣きをしたり、泣き止んだりを繰り返してました。少しでも苦手なことにチャレンジし、乗り越える心地よさを、喜びを感じてほしいと思

「自分も相手にも命を預けて私たちが生かされていること、阿弥陀さまもきっと、がんばっている!!」と応援して下さっている!!と、Aちゃんの今一つの反応にあきらめかけた私。するとその時、「食べ

る!!」と聞こえてきました。一瞬自分の耳を疑い、聞き直してしまいました。「食べる!!」とAちゃん。決心にはかなり時間がかかりましたが、そうと決まったら別人のようでした。自らフォークを握り、あれほどまでに頑なに顔を背けていたお野菜たちをあつという間に完食してしまいました。職員一同驚きでした。そして、その翌日、Aちゃんからうれしい宣言が!!「今日もお野菜頑張る!!」!!そして実際頑張った完食。それはその日以来ずっと続いています。毎日「今日もお野菜頑張ったよ!!」と報告にやってくるAちゃんを見ていて、たった二歳の子でも、自分の中の大きな問題と葛藤する力が備わっていること、仏さまの見守りの中、乗り越える喜びを感じ、さらなるチャレンジ精神を持っていることに感動を頂いています。生まれも育ちも何もできない、分らないと思っていた自分がすごく偉そうであったことに気付かされました。こういった葛藤が毎日

一人一人の子どもの心の中で起きていることを思った時、一日の大半を過ごす園で子どもたちに関わらせていた役割の大きさ、責任の重さを痛感します。

〇・一・二歳児も一人の人間であり、その年齢、月齢に応じた課題というものがありま。その課題に対して一人一人の子どもたちが向き合える心、乗り越える力を阿弥陀さまがしっかりと見守っていて下さることをどれだけ保育者が信じていけるか出来るかどうかが子どもたちの成長は大きく変わるように思います。この文を書かせて頂いて、又私自身の大きな課題が見えてきました。今後は当園が開園当初から大切にしてきたまことの保育の保育理念に沿えるよう、み光に照らされながら私自身が自分の心と向き合う生き方が心づけ、子どもたち一人ひとりと心を通わせ、〇歳児からの『心の教育』を大切にしていきたいと思



園だより

卒園して立派に社会人として、各方面で活躍されていることは歓喜のことである。お二人の方のコンサートと園児へのお話の会を開いた。

二月二十五日、現在奈良市在住で、パリでクロードカシ国際ピアノコンクールでグランプリを受賞した花川文音さんのピアノ演奏会を開き、園児達の知っている曲を中心にすばらしい演奏を聞かせて頂いた。

後日、お手紙を頂いたので、ご紹介します。

「拝啓 寒さの中に春の気配を感じる頃となりました。先日はお招きいただきありがとうございました。演奏を通して、素晴らしい再会と新たな出会いを与えていただきましたこと、心から感謝しております。

私にとって新田塚幼稚園は、長い年月を経てもなお「ただいま」と羽を休められ場所であり、幼い頃に味わった「細胞を目覚めさせる」場所でした。私の原点は間違いなくここなのだなぁと、改めて実感させて

抱いてきました。でもこうした感覚は、自分が持つ生まれたものではなく、遠い昔に新田塚幼稚園の先生方が私という土壌にしっかりと種を蒔いて、大切に育ててくださった賜物だと思っています。



今も大事にしている発見ノートは、先生方の素敵な言葉の宝庫です。卒園の文集には、大きくなったらピアノストになりたいとありました。

平成二十七年三月一日 花川文音

清水さんのお父さんも「駅前から新田塚まで毎日、送迎した事がなつかしいです。新田塚幼稚園が基礎です。兄の方は私の家へ来てもお仏壇へは参らぬが、智信は今でも必ずお参りしてくれま

成人式お祝い御贈下され誠にありがとうございます。友規は今、神戸大医学部二年生となりました。おかげさまで、新田塚幼稚園の親鸞聖人の教えの感謝の気持ちを大切に、ありがたうを素直に言える子に育っています。幼稚園の益々のご繁栄を心よりお祈りいたします。

宇野美千子様 先日、藤島高校を卒業し春から早稲田大学に行くことになりました。あつちでも周りの人の支えてくれる人を大切に感謝の気持ち忘れず謙虚に前向きにがんばります。 南部彩乃さん



お便り

清水智信さんトーク

三月十八日、第十八回卒園児、元ボクシングチャンピオン清水智信さん来園。園児達にチャンピオンベルトを見せて頂き、色々とお話しされた。その中で、何故、チャンピオンを獲得したのか。まず、第一は自分はチャンピオンになるんだと自分のことを信じた(信念を貫く)。二番目には勇気を出すこと(人が嫌がることが、怖がることを率先してやること)。三番目は両親や応援して下さっている人々に対して「ありがとう」という気持ちをもちたいこと(多くの人に支えられている)ということ

卒園生の岩佐高征さんは六月十四日ゲストにキョシ小林さんなどお迎えし、一〇〇万人オーケスト、ウクレレコンサートがハーモニーホールふくいで開催された。福井でのウクレレ普及にも尽力されている。幼稚園でも保護者向けに月二回、支坊にて教室を開

マリンバ演奏

当園の母の会々長、加藤智里と平岡愛子さんの「以心伝心」と題したマリンバの演奏会が二月二十日、ハーモニーホールふくいであり、大いに楽しませて頂いた。お子さんの在園中、ぜひ園でもあつちの演奏を聞かせて欲しい。

